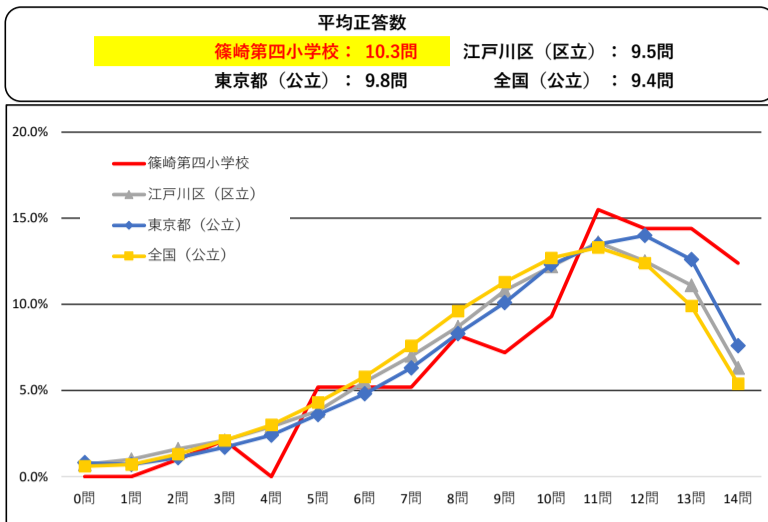


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立篠崎第四小学校

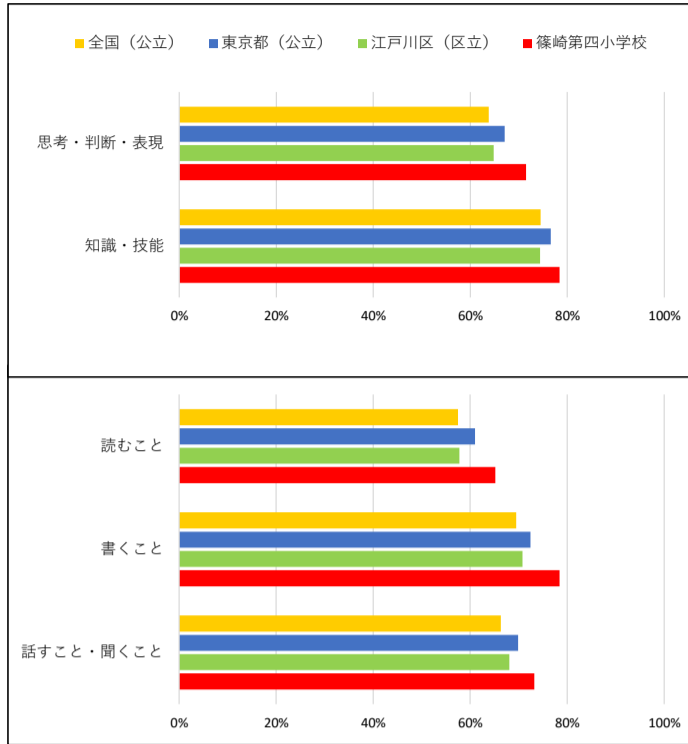
正答数分布



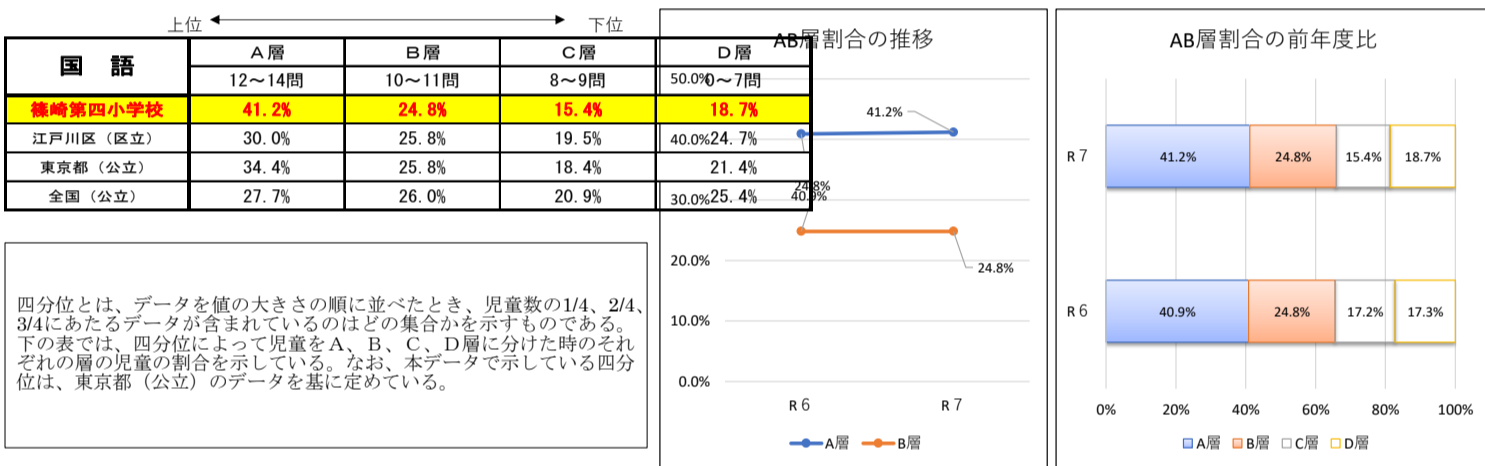
【平均正答率の差】

篠崎第四小学校	73%
江戸川区（区立）	68%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	66.8%
都との差（ポイント）	3.0

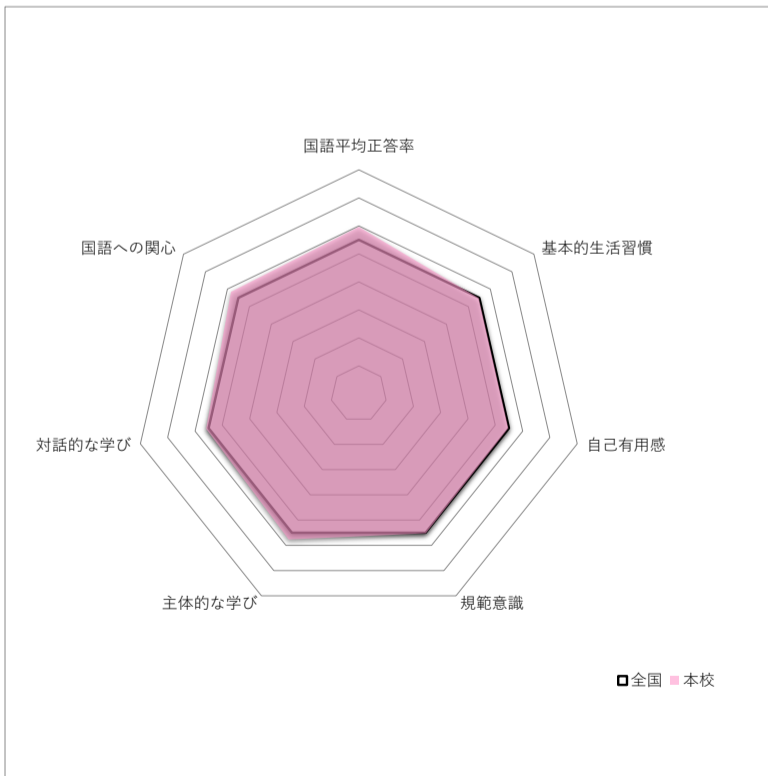
「領域別」の結果



四分位における割合（都全体の四分位による）



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- 平均正答率は、全国・東京都・江戸川区より、高くなっている。
- 国語への関心や主体的な学び、対話的な学びは、全国と比較して肯定的な回答が6～16ポイント多くなっている。
- 基本的な生活習慣や自己有用感等の肯定的な回答は、全国と比較して1～2ポイント低くなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

- 家庭と学校で連携し、「ドリルパーク」や「家庭学習の手引き」等を活用している。
- 「江戸川っ子 Study week!」を年間3回実施している。
- 学校ホームページや保護者会等で児童の実態を公表し、学校と家庭、地域で連携して取り組んでいる。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 - 令和7年度のA層とB層の割合は、令和6年度と比較して、A層が0.3ポイント増加した。
 - B層の割合は、昨年度と変わりなかった。
 - 東京都の平均正答率との比較では、+3.0ポイントとなっている。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
 - 校内研究で、教員の授業力を向上するために算数科を中心として行っている「授業の構造化」と「ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善」を国語科でも活用して実践している。
 - 授業観察を見合い、助言したり、参考にしたりする機会をとっている。

・基礎学力の保障

- ・言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものとするために、司書教諭を活用し、探究的な学習を実施し、読書科の授業内容の充実を図っている。
- ・読書に親しむ時間を確保するために、週に1回、読書の時間や朝読書を設定している。
- ・4年生以上では、「よむよむ」を活用し、読解力を高めている。
- ・音読の課題に定期的に取り組んでいる。

・学習習慣の確立

- ・学習習慣を確立させるために、「話す」「聴く」を中心とした学習の仕方を徹底している。
- ・学習規律を身に付けさせるために、「篠四スタンダード」を各教室に掲示し、意図的・計画的に指導している。
- ・家庭学習の習慣について、家庭と連携して取り組んでいる。

・AB層の育成

- ・自主的に読書活動を行えるようにするために、公共図書館と連携し、発達段階に合わせた図書を揃え、探究的な学習ができる環境を整えている。
- ・一人一人の学力を伸ばすため、児童の実態に応じた課題や教材等を活用している。
- ・学習過程において、自分の考えを分かりやすく説明する場を設けている。